

整理番号 2017P-008
補助事業名 平成29年度 自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する 補助事業
補助事業者名 一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

全国各地で大会を開催することで、幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場を提供し、東京五輪等の国際競技大会でも活躍できるよう競技力の向上を目指す。また地域住民やスポーツ観戦ファンへ自転車競技を身近に感じてもらって観戦する楽しさを提供し、普及に努める。

(2) 実施内容

① 第51回 JBCF 経産大臣旗ロードチャンピオンシップ 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20171028_id=15382)

開催日 平成29年10月28日

開催地 群馬県 群馬サイクルスポーツセンター (1周/6kmの周回コース)



スプリント勝負を制した佐野淳哉
(マトリックスパワータグ) が優勝



栄えある経済産業大臣旗は
マトリックスパワータグの元へ

② 第48回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170910_id=14564)

開催日 平成29年9月10日

開催地 静岡県 伊豆ベロドローム



女子チームスプリント 1位 ミタ・イタ・イ・パ
-ルイス・ミラバ 和 (小沼、阿部) 39秒082



男子ポイントレース(30km) 浜
田 大雅 (EQADS) が優勝

③ 第51回 JBCF 東日本ロードクラシック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170422_id=11882)

開催日 平成29年4月22-23日

開催地 群馬県 群馬サイクルスポーツセンター (1周/6kmの周回コース)



心臓破りの坂を行くメイン集団



中島康晴 (キナンサイクリングチ
ーム) がスプリントで優勝

④ 第51回 JBCF 西日本ロードクラシック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170701_id=13224)

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170702_id=13226)

開催日 平成29年7月1-2日

開催地 広島県 中央森林公園サイクリングコース (12.3km周回コース)



会場は広島空港周辺のコース。先頭は地元 VICTOIRE 広島の西川昌宏



フェミニンは唐見実世子(弱虫ペダルサイクリングチーム)が優勝

⑤ 第48回 JBCF 東日本トラック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170806_id=13897)

開催日 平成29年8月6日

開催地 長野県 松本市美鈴湖競技場



日本で一番高い標高 1000m に位置する美鈴湖自転車競技場



チーム・パーシュートで実業団新記録を出した愛三工業レーシングチーム

⑥ 第51回 JBCF 西日本トラック 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20160522_id=6798)

開催日 平成29年5月7日

開催地 大阪府 岸和田競輪場



男子スクラッチは松山城南高等学校自転車競技部の日野泰静と塩崎隼秀がワン・ツー



女子500mタイムトライアル 1位 阿部セラ（スミタ・エイダイ・パールイズミ・ラバネロ）40秒285

⑦ 第16回 JBCF 石川サイクルロードレース 開催

(http://www.jbcf.or.jp/races/20170716_id=13461)

開催日 平成29年7月16日

開催地 福島県 石川町・浅川町周回コース 13.6km/1周



スタートに先立ち、子どもたちのランニングバイクのレースが行われた



里山の風景の中を行く集団

2 予想される事業実施効果

(ロードレース)

レースでの実戦が競技力向上につながり、さらにポイントランキング制度により、つねに競争原理が働き、スキル、走力も含め競技力の向上が期待できる。また、レベル別レースにより、潜在的競技者も参加しやすい環境となるため、広範囲な競技者層の拡大に繋がる。直接、会場に来る観客にはもちろん、その他一般のスポーツファンへもレース動画のWEBによる無料配信やスポーツ専用チャンネルでの総集編の放映などにより、観戦する楽しさを提供し、ファンを増やし、認知度を高めることで、メジャースポーツとして醸成させる目的の一助を担っていく。

(トラックレース)

年間シリーズ大会として、レースでの実戦が競技力向上が期待できる。また、トラックポイントの一部を、ロードポイントに付与出来るようにすることで、ロード選手にもトラックの中、長距離に積極的な参加を促し、ロードのスピード化とトラック種目の活性化を図っていく。また、会場内で、MCにより初歩的な競技説明を行うなど、観る楽しみも提供し、メジャースポーツとして醸成させる目的の一助を担っていく。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- ① 「第51回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ」プログラム
(http://www.jbcf.or.jp/images/2018/07/2017-1_program.pdf)
- ② 「第48回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ」プログラム
(http://www.jbcf.or.jp/images/2018/07/2017-2_program.pdf)
- ⑦ 「第16回 JBCF 石川サイクルロードレース」プログラム
(http://www.jbcf.or.jp/images/2018/07/2017-7_program.pdf)



4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟（ゼンニホンジツギョウダ
ンジテンシャキョウギレンメイ）

住 所： 〒141-0021
東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5階

代 表 者： <2018. 2. 27就任>理事長 片山 右京（カタヤマ ウキョウ）

担 当 部 署： 連盟本部（レンメイホンブ）

担 当 者 名： 平木 里美（ヒラキ サトミ）

電 話 番 号： 03-5475-8781

F A X： 03-5475-8740

E - m a i l： info@jbcf.or.jp

U R L： <http://www.jbcf.or.jp/>

平成 29 年度 JKA 補助事業 (2017P-008)
自己評価委員会 議事録

平成 29 年 12 月 21 日、平成 29 年度第 11 回理事会を開催し、同時に理事による自己評価委員会として、平成 29 年度の JKA 補助事業に関する評価を行った。

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟
平成 29 年度 第 11 回理事会

日 時：平成 29 年 12 月 21 日 (木) 13:00~16:40
場 所：東京・自転車総合ビル 7 階 会議室
出 席：斧 隆夫 (理事長)、清水 弘裕 (副理事長)、小黒 一弘 (理事)、吉川 章 (理事)、奥田 悦司 (理事)
職 員：小黒 迅 (事務局)

議 題：

平成 29 年度自転車競技の普及促進補助事業について、事前計画と対比して評価を行う。

- 【補助事業】
- ①第 51 回経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ
 - ②第 48 回全日本トラックチャンピオンシップ
 - ③第 51 回東日本ロードクラシック
 - ④第 51 回西日本ロードクラシック
 - ⑤第 48 回東日本トラック
 - ⑥第 51 回西日本トラック
 - ⑦第 16 回石川サイクルロードレース

事務局より、各大会の事前計画と個別項目評価案が示され、それに基づき、総合評価を行った。

①第 51 回経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

(a)事業全体についての意見・所感

- ・連盟創設とともにある 50 年の歴史と、経済産業省から大臣表彰状、輪翔旗を下賜される、国内最高峰のひとつと言える大会であり、今後も継続開催をしていきたい。
- ・天災による開催地の変更により、地域活性化への貢献はできなかったが、変更後のコースは、タクティクスが要求される適度の高低変差もある一周 6 km の周回路で、サーキットながら実力差の出てくるものとなっており、日頃の練磨の結果を競い合っ て競技力の向上を図るものとして有意義な大会となった。
- ・また、首都圏からのアクセスも良いため、達成目標である参加者数は大幅に増加した。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。
- ・2020 年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広

い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

②第48回全日本トラックチャンピオンシップ

(a)事業全体についての意見・所感

- ・連盟創設後まもなくより開催し、半世紀近くの歴史を刻んできたトラックレースのチャンピオンシップ大会であり、国内での強化合宿より最も効果があるレース実戦による競技力強化の場、機会を提供するものとして、今後も継続して開催していきたい。
- ・東京五輪の会場に決定した伊豆ベロドロームで開催することは、世界標準である板張り250mトラックでの習熟度を高め、世界で活躍できる選手の育成、増加につながり、競技役員のレベルアップをも図り、国際レベルの運営を目指すことにもなり、大変有意義であった。
- ・要望提出時には「オムニアム開催のため二日間開催を視野に入りたい」としていたが、オムニアム競技規定の大幅な改定により、1日開催でも可能となった。同じくオリンピック種目となったマディソンと合わせ、今後、開催種目や開催日数について、再検討する時期にきている。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・ロードレースを主体とする選手にもトラックレースの有効活用を訴求することで、参加者数が増えてきている。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジし

ていきたい。

③第 51 回東日本ロードクラシック

(a)事業全体についての意見・所感

・全日本実業団自転車競技連盟の発足より共に歩みロードレースの歴史そのものと言っても過言ではない 51 回の開催を迎える東日本地区選抜大会であり、今後も継続して開催していきたい。

・連続するアップダウンとテクニカルなコーナーが続き、8%の勾配の坂が後半に現れ、ゴール手前約 2km の部屋ピンカーブなど、群馬サイクルスポーツセンターのレースコースでの実戦は、競技力強化の場、機会を提供するものとして有意義な大会といえる。

(b)優れている点、課題、改善点

・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。

・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。

・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。

・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。

・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

④第 51 回西日本ロードクラシック

(a)事業全体についての意見・所感

・全日本実業団自転車競技連盟の発足より共に歩みロードレースの歴史そのものと言っても過言ではない 51 回の開催を迎える西日本地区選抜大会であり、今後も継続して開催していきたい。

・アップダウンとコーナーの多い、力とテクニックの両方が試され広島県中央森林公園のレースコースでの実戦は、競技力強化の場、機会を提供するものとして有意義な大会といえる。

(b)優れている点、課題、改善点

・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。

・参加者数は微減し、事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった

・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特

に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

⑤第48回東日本トラック

(a)事業全体についての意見・所感

- ・地元長野県自転車競技連盟の全面的なご協力の元、公平で安全な競技運営を行う事ができた。
- ・27年6月に完成した美鈴湖自転車競技場であるが、333mの周長で非常にスムーズな路面と、標高約1千メートルの高地にあり空気抵抗も少ない。男子チーム・パーシュートでは、愛三工業レーシングチームが、4分20秒727の実業団新記録を出して優勝するなど、今後も好記録が期待できる。
- ・レース実戦による競技力向上の機会を創出していくためにも今後も継続して開催していきたい。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・ロードレースを主体とする選手にもトラックレースの有効活用を訴求することで、参加者数が大幅に増えてきたことは好材料だが、限られた時間での進行が難しくなり、競技時間をオーバーしてしまった。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

⑥第51回西日本トラック

(a)事業全体についての意見・所感

- ・西日本地区の選抜大会として、連盟創設後まもなくより半世紀近く歴史を刻んでおり、レース実戦による競技力向上の機会を創出すべく、継続的に開催していき、今後も、レース実戦による競技力向上の機会を創出していきたい。
- ・会場の岸和田競輪場は1周400mのクセのない走りやすいバンクで直線も比較的長い
ため、脚質による有利不利は少なく、ロードレース選手にとっても参加しやすい会場であり、スピード強化練習のために、ポイント加点制度を設け、積極的な参加を募るなど、さらなる選手層を拡大していきたい。
- ・今大会の前に「西日本学生トラック」が同競輪場で行われ、そこで執務した大半の競技役員が同じ配置のまま今大会も執務したため、効率よく、的確な審判業務が行われた。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・ロードレースを主体とする選手にもトラックレースの有効活用を訴求することで、参加者数が大幅に増えてきたことは好材料だが、限られた時間での進行が難しくなり、競技時間をオーバーしてしまった。
- ・事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

⑦第16回石川サイクルロードレース

(a)事業全体についての意見・所感

- ・高体連との連携により、地元高校の有力選手が多く参戦し、実業団選手とともに、鎬を削るという交流の場として、そしてジュニアカテゴリーの実戦強化として意義の深い大会である。
- ・地元の方々から沿道のそこそこで応援する姿は、選手にとって、暖かなもてなしとなり、モチベーションアップに繋がっている。
- ・地元行政に尽力いただいた一般公道での、丘陵部と平坦部が適度にミックスされた難易度の高いコースは、内外から高い評価を得ており、競技力向上のためにも継続して開催していきたい。
- ・参加者数の達成状況が80%を少々割ってしまい、採点は「2」となったが、この参加者数に含めていない、福島県車連を通して参加している高校生選手は近年増加（2014年45名、2015年52名、2016年56名、2017年77名）していることは明るい材料と言えよう。

(b)優れている点、課題、改善点

- ・情報発信において、スピーディーな体制を取ることができた。
- ・参加者数は微減し、事業の成果・波及の指針となる競技者の登録数が前年よりは増加はしたものの、目標は達成できなかった。
- ・2020年の東京五輪で活躍できるよう、今後も、競技力の向上を目指し、全国の幅広い競技者へ日頃の修練の成果を示す場として全国各地で大会を開催していくとともに、特に、将来有望な若い競技者やスポーツ観戦ファンの目を自転車競技に向けさせていかねばならない。

(c)その他アピールしたい点

- ・全国各地で自転車競技大会を継続的に開催し、情報発信することで、全国の幅広い世代の競技者に実戦強化の場を提供し、競技力の向上を図っていく。
- ・東京五輪に向け、一層普及促進に繋げて行くためにも、主にウェブを使って、情報発信の質と量を増やし充実させ、自転車競技を「エキサイティングスポーツ」として感動を提供し、ファンを拡大していく。
- ・イベントとしての魅力をも訴求し、地域活性の切り札として、価値共創にチャレンジしていきたい。

以上

平成29年12月21日

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

平成29年度 第11回理事会

平成29年度 JKA 補助事業 自己評価委員会

議長代表理事 斧 隆夫

副理事長 清水 弘裕

理事 小黒 一弘

理事 吉川 章

理事 奥田 悦司